

F4、F5を楽に登り、次の小滝に着く。ちょっと見た目には問題はないのだが、取り付けない! 仕方なく泳いで取り付く。F6 10mも直登。この手前で右側の岩壁にカモシカ発見。F7~10は5mクラスのナメ状の滝。当然ながら全部直登。休む暇もない。ウキウキ気分で遊ぶ。

F11からは規模の大きい滝となる。F11 40m。ホールドもしっかりしていて、行きずまっても逃げる所があるのを見て、直登する。F12 30m。これも直登。F13ナメ状で3段の滝。ここも直登する。

F13を登った所で時計とにらめっこ。もう10時。下降を考えて、ここで遊行を打ち切り、10:10 下降開始 計10回のアップザイレンで下る。

この沢は過去に幾パーティも入山している。結局F3を除いて全部直登! おもしろい沢でした。

(記・)

[タイム] 遊行開始(6:50)→F13(10:10)

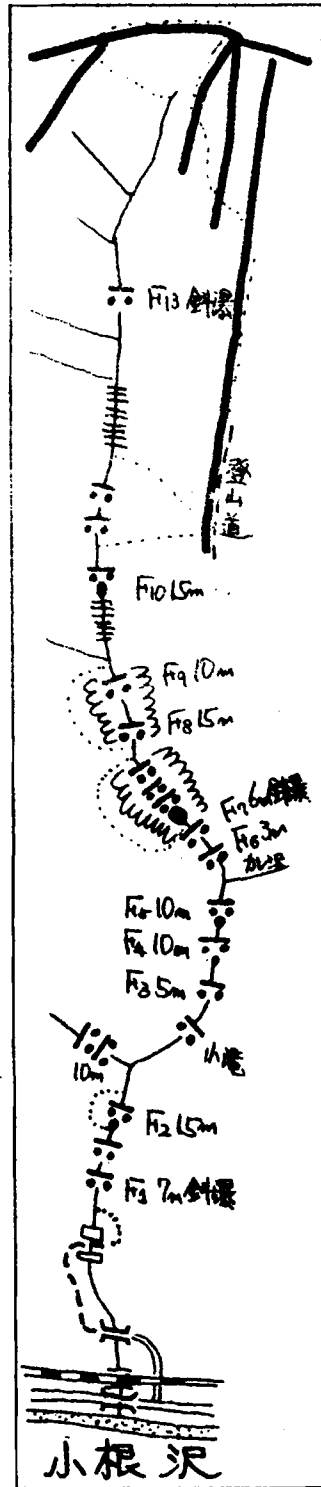
### 小根沢 1983年8月28日

L

結論から先にいうと、小根沢はF11 30mの滝を見たならば、そのままどってくるべき沢である。下手に沢をつめて尾根に出ると、ひどい藪こぎとなるので御用心。

会津水沼駅のすぐ下流の沢が小根沢である。7:00 F1到着。一枚岩の斜瀑である。このあと、結構滝が続き、変化がある。直登したり、捲いたりしながら進む。1時間でF11 30mまで来てしまう。

この滝は途中までは登れそうだが、上部がハングになっているため直登はできない。右側を捲くことになり、登り始める。右尾根に出るまで1時間かかった。沢登りに来たというより、ロッククライミングと藪こぎに来たといった方が正確。下がぐっと切れているので、スリルがある。



さて、右尾根に出たところ、登山道があるではないか。帰りはここを利用しようということになり、再び小根沢に下降する。

沢に降りてから、少し下ってF11を見に行った。F11の上にはF12 8mがあって、2段滝になっていることを確認する。この後は平凡な沢歩きである。

ツメは、右尾根に取り付きたかったのだが、スラブとなっていて、とても登れそうになかったので、左尾根にした。ここは上部がすべてスラブとなっている。わらじのフリクションがよくきく。左尾根10:25着。

尾根に出たらきつと道があるだろうという、私達の期待虚しく、ひどい藪こぎが続く。道の形跡など全然ない。また、本当は小根沢と水汲沢を分ける長い尾根に出るはずだったが、方角を間違えて他の尾根に入ってしまった。あれやこれやでもかくひどい藪こぎを2時間やって、登山道のある所に出たのが12:25である。この後は、楽しい話もできるようになり、ルンルン気分で降りてきた。途中に祠があった。(記)

[タイム] 会津水沼駅(6:40)→遊行終了・尾根(10:25)→会津水沼駅(13:20)

## きたのこ沢左俣

1983年8月27日

L

上田ダムより踏跡をたどって、吊橋の所から入溪。しばらくは広い河原で、小沢が合流するだけ。二俣の手前で沢幅が狭くなり、カマがある。これを越えた所が二俣(右俣出合)である。

左の沢にルートをとって、すぐの釜をへつって越えると、兩岸が岩場となり、右岸よりガリーが数本続いて合流して、また二俣(中俣出合)となる。また左に入る。

沢が逆S字状に曲がり、左岸に岩場を見て進むと、いくつかチョック滝が続く。途中残置ハーケンをみる。左右から何本も小沢が合流する中を進む。F1 3mは軽く通過。F2 4mひょうり滝も過ぎ、F3 3mを越えると、右岸の岩場より20mの滝となって支沢が合流する。支沢のくせに本流より水量が多い。

続くF4、F5をなんなくパスして先に進むと、ガリーが何本か合流して二俣となる。右に入る。ここらあたりからはいくつも同格の沢が合流しているので、地図をみながら滝のかかっているような沢を選んで進む。

三俣の先のF7 12m 2段の滝は、左のガリーを登って、次のチョックストーン滝までトラバースして播く。その先の二俣は、右が20m滝、左がF9、F10と続く所で、右の20m滝を登り、トラバースして左の沢に移る。